

令和3年度第2回座間市地下水保全連絡協議会 会議録

- 1 日 時 令和4年1月13日(木) 午後3時10分～午後4時40分
- 2 場 所 座間市役所 4-2会議室
- 3 出席者 委 員 岩田会長、小俣副会長、室星委員、小林委員、山田委員、渡邊委員、
原委員
事務局 環境経済部長、環境政策課長、環境保全係長、主事1名
- 4 公開の可否 公開 一部公開 非公開
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 題 ・平成29年度座間市地下水総合調査事業委託成果報告について
・令和4年度の地下水保全に係る事業について
・その他
- 7 配布資料 ・次第
・資料1 平成29年度 座間市地下水総合調査事業委託 成果報告
・資料2 令和4年度以降の地下水保全に係る事業計画一覧
- 8 議 事

(1) 平成29年度座間市地下水総合調査事業委託成果報告について

① パシフィックコンサルタンツ(株) (以下「PCKK」という。)による事業報告
「平成29年度座間市地下水総合調査事業委託」について、事業報告がありました。

② 質疑応答等

・岩田会長

海老名市との境に住んでいる。目久尻川の近くに住んでいるため、地下水位を管理指標として取り扱うことはよくわかる。

市の地下水を守っていくためには、周辺流域の人が一緒に取り組んでいく必要があることを理解した。このような時代になりつつあるということで、行政だけではなく、周辺地域の市民も一緒に理解し、考えていく必要がある。

大規模地下構造物の建設について、地下水に影響がないという報告だったが、間違いないか。

・PCKK

大規模地下構造物は、シールドトンネルで計画されているため構造物内に地下水が漏れない。

トンネルの周辺で地下水の流動が阻害され、若干の地下水位変化が予測されるものの、地下水流動量が増えるわけではないため、市の地下水への影響がないということを確認できた。

この結果は、JR東海の環境影響評価書でも示された結果と同様である。市への

影響評価を行うことを目的に構築した今回のモデルでも、同様の結果を確認したこととなった。

・小林委員

スライド20について、黄色のメッシュは何を示しているのか。

・PCKK

GETFLOWS（三次元水循環解析モデル）において、トンネル形状を再現した際のメッシュイメージである。

実際のトンネル形状は丸となるが、解析モデルでは丸を完全に再現することが難しいため、それに相当するメッシュをトンネルとして設定した。

・小林委員

駅の形状はどのように設定しているのか。また、車両基地などは設定しているのか。

・PCKK

駅の形状もトンネルと同様に、駅に相当するメッシュを駅として設定している。なお、実際の駅の形状よりは大きく設定しているため、安全側の解析となっている。

車両基地は、今回の解析範囲に該当する箇所はない。

・原委員

地下水位の高さとトンネルの高さの関係を教えてほしい。

・PCKK

地下水の中にトンネルが構築されることになる。そのため、トンネルの周辺では、若干の地下水位の変化が生じる。

・原委員

トンネルの構築により、地下水の流れの上流に位置する水源域などへ影響はないのか。

・PCKK

トンネル周辺への影響は説明したとおりであるが、施工が十分であれば、水源域などへの影響は基本的にないと考える。

・原委員

大規模地下構造物が市の地下水へ及ぼす影響について、JR東海から説明はあったか。

・事務局

公開されている環境影響評価書で結果が示されている。トンネル工事に伴い発生する地下水位への影響は小さいと予測されている。

・岩田会長

今回の報告を受けて、周辺自治体との連携について、市も本腰をいれないといけ

ないのではないかと考える。

・事務局

周辺自治体との連携は必要と考えている。機会を捉えて発信していきたいと考える。

・原委員

周辺の自治体では、市と同様の会議はあるのか。市と同じように受け皿があると、協力しやすいのではないかと考える。

・事務局

地下水に限った会議はないが、環境という観点で会議体が設置されている。周辺自治体には、機会を捉えて、地下水のことを発信していきたいと考える。

・岩田会長

今回の報告において、雨水の浸透を継続させることが重要であることが示された。私の家にも雨水浸透ますが設置されており、雨水の浸透を促進しているが、管理・清掃を行うことが難しいことを実感している。行政で何か手を打つことはできないか。

・事務局

市としては雨水浸透ますの設置に対して助成金を出している。清掃についても、説明を行っているが、さらに周知していきたいと思っている。

・小俣副会長

富士山の噴火シナリオでの検討が行われており、今後の災害対応という観点で参考になった。

実際に富士山が噴火した際に、市として何か対応策を保有しているか。

・事務局

災害対応という観点で、地域防災計画の策定を行っており、その計画内で対応することとなる。

・小林委員

スライド29について、2012年以降地下水採取量が減少している理由は何か。

・事務局

2012年度に市の水源井戸の工事があり、地下水の使用水量を減少させた。

河川水（県水）の使用を少し増やした結果と考える。

・岩田会長

今回の報告により、あらためて地下水は広域で考えていく必要があることを理解した。

雨が降っても地下水位が変動しないということについて、もう少し説明してほしい。

- ・ P C K K

市の地下水は深い位置にあるため、降雨による変化が小さい。ただし、湧水や河川流量は変化していることが確認できる。

- ・ 小林委員

地下水に対して、一番影響が大きいシナリオは何か。

- ・ P C K K

シナリオ4の「100年に1度の渇水が発生したシナリオ」が、一番影響の大きいシナリオになる。

シナリオ4でも今回提案した注意水位には達しない。ただし、さらに厳しい渇水が生じる可能性があるため、今回の地下水管理指標は妥当と考えている。

- ・ 岩田会長

将来的には人口が減少するため、揚水量が増えることはないと思う。

今後、市街化により土地が被覆され、雨水の浸透が減少することが問題になると考える。

- ・ P C K K

そのとおりと考える。都市化した状況で渇水が発生すると地下水に影響があると考える。

- ・ 小林委員

報告はこのデータで終わりか。

- ・ 事務局

委託の成果品として後日報告を受ける。

(2) 令和4年度の地下水保全に係る事業について

①事務局による説明

翌年度以降の地下水保全に係る事業について説明。

②質疑応答等

- ・ 小林委員

事業に「検証」とあるが、これを具体的に説明してほしい。

- ・ 事務局

ホームページにも公開されている平成28年に策定した座間市地下水保全基本計画について、平成29年度座間市地下水総合調査事業の結果等を反映させて検証する予定である。

(3) その他

特になし。